

シェイクアウト参加登録者数 参加団体数：1,152 団体、参加登録者数：25 万 9,052 名

訓練日時 令和 7 年 11 月 5 日（水）午前 10 時

※参加者の都合により上記の日時に実施できない場合は、日時を変更して実施
プラスワン訓練

「家具の転倒防止」、「備蓄品の確認」、「避難所・避難経路の確認」に重点を置き呼びかけた。

訓練の参加登録実績

参加形態	団体数	参加人数（人）
個人・家族	1 4 4	2 9 4
自主防災組織	3 1	4 2, 5 1 9
高校・大学	5 0	3 8, 0 7 8
専修学校・各種学校等	1 8	3, 8 3 0
特別支援学校	9	1, 8 7 3
小学校・中学校	2 0 7	7 1, 5 5 3
保育所・幼稚園・こども園	2 7 9	3 0, 2 8 6
医療・福祉機関	1 1 8	1 0, 2 4 4
企業	2 1 1	2 0, 7 3 6
協同組合・その他の団体	3 3	1 5, 7 0 5
行政機関・公的機関	5 2	2 3, 9 3 4
合 計	1, 1 5 2	2 5 9, 0 5 2

市町別参加登録人数

市町名	参加人数（人）	市町名	参加人数（人）
高松市	1 4 7, 6 4 6	土庄町	1, 2 8 6
丸亀市	2 7, 0 7 9	小豆島町	1, 5 6 4
坂出市	1 1, 6 3 2	三木町	5, 8 6 2
善通寺市	1 6, 5 4 6	直島町	4 4 9
観音寺市	9, 3 2 7	宇多津町	4, 1 9 3
さぬき市	6, 4 5 7	綾川町	3, 9 6 8
東かがわ市	3, 5 9 4	琴平町	1, 7 7 8
三豊市	1 0, 4 3 3	多度津町	4, 0 4 3
		まんのう町	3, 1 9 5

プラスワン訓練の登録件数

プラスワン訓練	登録件数
家具の転倒防止	1 8 8
家族との連絡方法の確認	4 0 2
避難場所までの経路の確認	4 2 6
備蓄品の確認	4 9 6
危険箇所の確認	1 9 6
避難訓練	2 5 1
役割分担の再確認	1 4 3
防災に関する話し合い	1 9 0
自主防災組織との合同訓練	4 1
小学校・中学校・高等学校との合同訓練	
医療・福祉機関との合同訓練	
その他	1 1 6

訓練の様子

【香川県庁】



安全確保行動（シェイクアウト）実施中



救護訓練



職員が各役割に応じ、災害対応行動を確認
（救護班）



消火器取扱訓練



屋内消火栓取扱訓練



斜降式救助袋取扱訓練

【高松市 らくらく保育園】



地震発生！シェイクアウト！



防災バックも忘れません



園庭に避難後は、整列！



全クラス、一斉に避難開始！



先生の指示通りに防災頭巾を被ります



先生の講話を真剣に聞いています

訓練後のアンケート調査

今後のシェイクアウト訓練の参考とするために、参加者を対象にアンケート調査を実施。

アンケートの調査方法：香川県電子申請サイトからアンケート調査を実施

アンケート調査期間：令和7年11月5日（水）～12月19日（金）

アンケート調査項目

- Q 1. 参加団体の形態について
- Q 2. 訓練の実施場所について
- Q 3. この訓練の情報を知った手段について
- Q 4. 取り組んだ訓練の内容について
- Q 5. 今回の訓練で防災について改めて気づいたこと
- Q 6. 今回の訓練に関する意見

回答数：738件

全体傾向

- ・ 中学校、専修・各種学校、高校・大学などの教育関係機関の参加人数が、全体の50%余りを占めており、教育現場にシェイクアウトが定着したことが伺える。
- ・ また、今年度143団体が初めて参加しており、近年の災害発生状況等を踏まえ、県民の防災に対する意識が高まっているものと考えられる。
- ・ 広く県民に参加を呼び掛けるため、報道機関（テレビ、ラジオ）や広報誌、ポスター掲示等により広報を行った結果、一定の効果はあったものの、訓練後のアンケートでは、回答者全体の7割に当たる方が職場や地域からの働きかけにより知ったことがわかった。
- ・ スマートフォン用の防災アプリ「香川県防災ナビ」の機能を利用して、プッシュ通知を配信した登録者は7,281人であった。

アンケート結果

Q 1. 参加団体の形態について

種別	回答数 (件)
小学校・中学校	1 6 8
保育所・幼稚園・こども園	1 6 4
行政機関・公的機関	2 0 5
医療・福祉機関	7 0
企業	6 6
高校・大学	2 6
その他の団体	1 5
特別支援学校	8
自主防災組織	2
専修学校・各種学校	3
協同組合	0
個人・家族	1 1
合 計	7 3 8

Q 2. 訓練の実施場所について

項目	回答数 (件)
学校	2 0 6
職場	3 4 9
家庭	7
保育所・幼稚園・こども園	1 5 9
外出先	2
地域の集会場	2
その他	6
計	7 3 1

Q 3. この訓練の情報を知った手段について

項目	回答数 (件)
職場での案内	5 2 4
その他	5
ポスター・チラシ	5 8
インターネット	1 2 5
回覧板	8
口コミ・人から聞いた	4
テレビ・ラジオ	1 2
合 計	7 3 6

Q 4. 取り組んだ訓練の内容について（複数回答）

項目	回答数（件）
地震時の安全確保行動（シェイクアウト訓練）を行った	6 9 8
避難訓練や消火訓練等を行った	1 5 4
家庭・職場の環境を見直した（家具固定，整理整頓等）	1 3 7
災害時の連絡方法を確認した	1 5 9
非常持出品や備蓄品の点検を行った	1 1 5
その他の防災の取組みを行った	8 6
延べ実施数	1, 3 4 9

Q 5. 今回の訓練で防災について改めて気づいたこと（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【個人・家族】

- ・家族がバラバラの時に災害が起こってしまった場合どうするべきなのか。きちんと話し合っておくべきだと改めて考えました。
- ・要介護者を連れてのシェイクアウトはどうしたらいいだろう、と考える機会になりました。
- ・近所は老人ばかりなので、災害が起きたら絶対パニックになると痛感した。

【保育所・幼稚園・こども園】

- ・初期対応時に情報共有が十分に行き届かない場面や、先頭で避難する職員の動きが滞ることで全体の避難に影響が出る可能性があることにも気付くことができました。
- ・災害時に車などが使用できないことを想定し、実際に保護者がどのくらいの時間で迎えに来ることができるのかを園と家庭の両方で共有することができた。
- ・災害時の保護者対応についてなど臨機応変に対応できるよう、訓練も様々な状況を想定しなければならないと思いました。
- ・戸外で遊んでいる時の災害時のことを想定して、戸外の倉庫にも避難リュックを準備しておくことにした。

【小学校・中学校】

- ・休み時間など教員が児童と別の場所にいる時の教員の行動原則を確立・共有する必要がある。
- ・実際に地震が起きたらパニックになり何が出来るか分からないので、訓練しておくことが大切だと改めて感じた。

- ・防災頭巾やヘルメットの置き場所、電気（放送設備）が使えなくなった場合の全校生への周知方法など検討が必要なことがある。

【医療・福祉機関】

- ・備蓄品で昼食作りを行いました。職員の中には保管場所、作り方等、分からなかった者もあり、実際試食もして少しは意識できたと思います。
- ・スムーズに進行できず、戸惑うことも多かったため、定期的に、研修計画に組み込み日ごろからの意識づけが大切であると感じました。
- ・介護施設で、認知症の方もおられるため、声掛けだけでは通じず、予測不能な行動をされる方もいます。そういった方に、どのように避難指示や防護していただくか確認と訓練の必要性を実感しました。
- ・シェイクアウトも定着し、職員・利用者共に積極的に参加してくれた。
- ・各部署に保管している非常食の消費期限を改めて確認した。
- ・職員が焦らず報告や誘導をできるように備えたいです。

【企業】

- ・備蓄品の表示プレートが見えなくなっていたことに気づき修正することができました。
- ・備蓄品の消費期限がすぎている物品があった。
- ・去年のシェイクアウトでは社内にいる人と、社外にいる人との連絡がスムーズに取ることが難しかったため、連絡網を見直し、現場ごとのリーダーを決めるなどして、円滑に従業員全員の安否確認を取ることが出来ました。
- ・今回、備蓄品の点検を行いました。水や非常食だけではなく、排せつ物の処理が必要と感じました。簡易トイレを購入しようと思います。

【行政機関・公的機関】

- ・大災害の少ない町であり、実際に体験した職員が少なくなっている中で、今回の訓練は職員の防災意識を上げるためにとても重要なものだと感じました。
- ・消火栓の取扱いが、女性一人でも出来るようになっていた。使いやすい構造になっていた。
- ・机の下に入れない状況の人もいたことから、日常の整理整頓が重要であることを改めて認識した。
- ・初めて初期消火訓練を行いました。実際に消火器に触ってみることで、いざというときにも冷静に対処できるようになったと思います。
- ・備蓄品の使用期限・消費期限を再確認する機会となり、実際に自宅の備蓄品の更新を行う良いきっかけとなった。

Q 6. 今回の訓練に関する意見（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【個人・家族】

- ・災害時の訓練は、自治会でも出来る時にやるべきだと思った。

【保育所・幼稚園・こども園】

- ・ラジオでは音が聞こえにくく、実際に地域にサイレン等を流してくれたらもっと緊張感も出てくると思う。
- ・予定時刻にJアラートが鳴らず、自園で地震を想定し訓練を行った。30分程度後に連絡がありJアラートが鳴ったが、訓練を終了していたため行わなかった。Jアラートの不具合の連絡がもう少し早く来てほしかった。
- ・訓練の合図が屋内にいた場合聞こえなかったなので、サイレンの音を大きくしてほしい。

【小学校・中学校】

- ・学校で統一して紹介するスライドなどがあれば、訓練後の周知がしやすいと思った。
- ・毎年、訓練することが大切である。
- ・仮に休み時間に地震が来た場合、大半の生徒は廊下や移動のために階段にいたりするため、安全確保行動の姿勢をとることができないこととなるので、どのような態勢がいいのか考えるいい機会になった。

【医療・福祉機関】

- ・地震対策やシェイクアウトについて分かりやすい（理解しやすい）、高齢者への注意喚起や対策の資料を作成してほしい。
- ・災害が起きた時の連絡手段として、メール、緊急速報、SNS、広報車両など、複数の情報入手・伝達方法を訓練の中で確認する必要があると感じた。
- ・ここ10年くらい毎年行ってきて、慣れのせいもあってか、やや緊張感が欠けてきたと感じた。来年の実施時にどのようにしたらよいか今後検討したい。

【企業】

- ・実施してよかったです。家の片付けの意識づけもできました。年に数回開催してほしい。
- ・香川県のHPのトップページに、シェイクアウトについて掲載されていないので、もっと大々的なアピールをしたほうがいいと思います。
- ・シェイクアウトに参加した証明等があると、参加する企業も増えていくのではと思います、ご検討下さい。

【行政機関・公的機関】

- ・みんなの意識付けのために、定期的を開催することをお願いしたい。
- ・定期的に多くの人に参加できる防災訓練があることは防災の関心を持ってもらえることにつながるので良いと思う。
- ・他の組織や個人がどのような取り組みをおこなっているか紹介してほしい。
- ・訓練と合わせて家・職場などでの防災の備えについてもっと周知してほしい。
- ・年に1度では少ないのではないかと感じる。日々危機感が持てる頻度で実施をすることが重要だと感じた。
- ・実際に消火器を使ってみるのは、いざという時のために慣れておくことができてよいと思う。
- ・シェイクアウトの放送が思っていたよりも短かった。

アンケートに御協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

香川県危機管理総局 危機管理課